

『吉備巫女神道・ヤマト皇統相関係図』

— 吉備の女系女子の王家とヤマトの男系男子の王家(天皇家)との交錯の図示 —
旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山口県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道
令和新時代 最終協力版

平成9年 巫女、社家子女、歌道家子女らが歌書や神儒仏の秘伝奥義の岩崎への相伝を開始し、岩崎が継承と調査研究を開始
平成23年7月6日 岩崎が本資料を起筆
令和元年6月2日

著作権法および『岩崎純一全集』第6巻に基づき、協力者の著作部分に係る著作権の全部の岩崎への譲渡が完了したことをもって、本資料を公表するため、最も早期からの作成資料『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の名称を『日本旧派歌道流派総覧』に変更し、これを母体として、本資料を含むその他の資料と合わせた『岡山県巫女特別協力資料』を設置
令和元年8月14日 公開、令和元年8月21日 最終更新

筆頭編著者：岩崎 純一

(岩崎純一学術研究所所長、財団事務局長、大学非常勤講師等)

編纂総本部：岩崎純一学術研究所(IJAI)

編纂作業：同上第二学堂(『岩崎純一全集』編纂学堂)第一学廊第三学館第二学庭

編纂作業補助：同上第二女子学堂(『岩崎純一全集』編纂女子学堂)第一女子学廊第一女子学館第〇女子学庭～第九女子学庭

本資料群の編著者・協力者一覧

岩崎純一学術研究所(IJAI)
岡山県巫女特別協力資料

(1)『日本神道道統図』(『全集』第14巻 別添資料)

(2)『吉備・ヤマト相関図』(『全集』第14巻 別添資料)

(3)『吉備巫女神道・ヤマト皇統相関係図』(『全集』第32巻 別添資料)

(4)『日本旧派歌道流派総覧』(『全集』第92巻 別添資料)

(5)『日本旧派歌道流派系統図』(『全集』第92巻 別添資料)

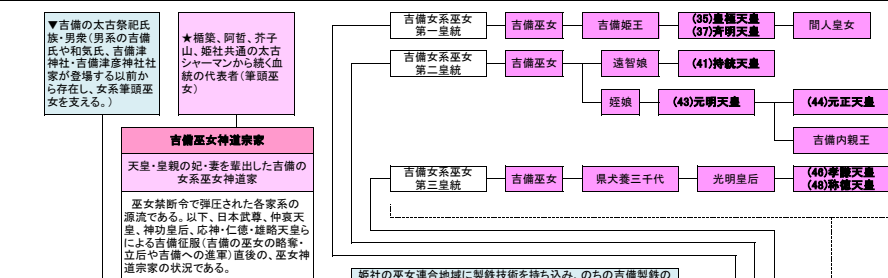
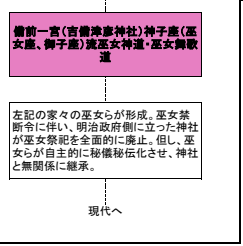
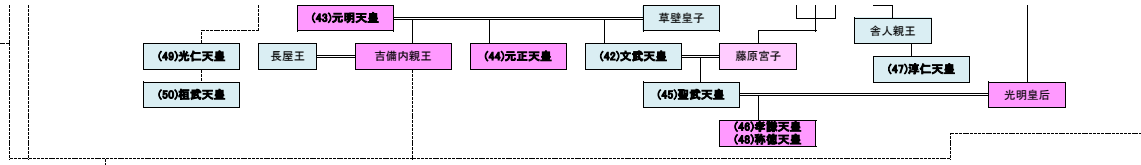
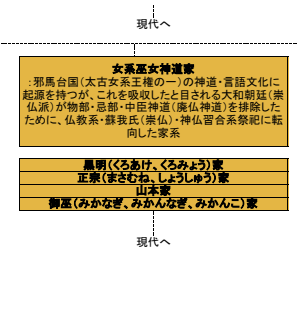
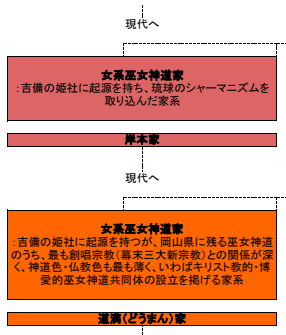
姉妹資料

『巫女神道比較表』(『全集』第14巻)

『巫女神道探訪記 - 日本のアニミズム感覚の源流を訪ねて -』(『全集』第14巻)

『大日本帝国陸軍歩兵第十連隊(岡山・鉄五四四八部隊)戦史調査資料』(『全集』第34巻)

岩崎純一学術研究所ウェブサイト (本資料群の掲載場所)	https://iwasakiunichi.net/
※ なお、本資料群は、上掲の巫女や歌道子女らが所属する社家や神社、岩崎が協力している女子寮の閲覧室の一部でも入手できる。また、岩崎が非常勤講師や特別講師を務める大学の講義でも、適宜使用する。	
参考文献(岡山県巫女特別協力資料の全資料の参考文献)	
Copyright (C) 2012-2019 岩崎純一 All Rights Reserved.	



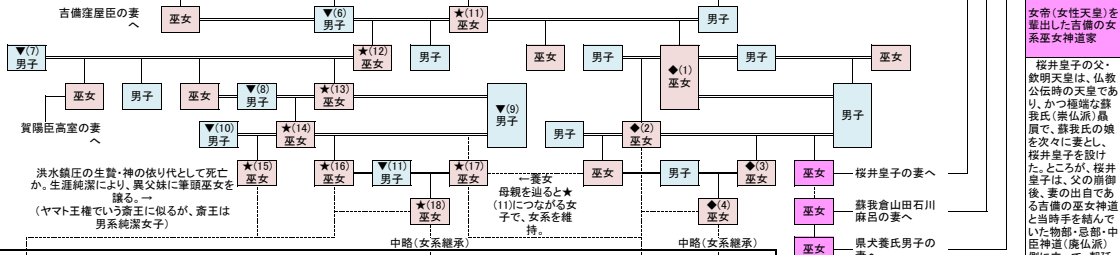
吉備巫女神道宗家系(宗家は、各家の嫁巫女により成り立つ。)

古代吉備王国連合(男王・女王連合王国)時代の系図
(古代出雲、古代毛野や、ヤマト王権・大和朝廷となる前の那馬台国・卑弥呼政權は、これに類似していたと推定される)

※ 本系図は、岡山県の吉備王国系・教派神道系巫女神道社家(旧派歌道総覧)を見よ)の協力による古代吉備王国末期についての推定である。
 ★女系巫女神道社家Aの筆頭巫女(巫女神楽・巫女舞、磐座祈禱、神剣演舞などの神懸り神事を代表して執行する。男王不在の間は女王を名乗る。)
 ◆女系巫女神道社家(A)から分家した女系巫女神道社家B...蘇我氏血統の推古天皇以外の奈良時代の全ての女帝(女性天皇)に女系でつながる。但し、皇統は、男系女系も皇位・家督を継ぎながら、その子には皇位・家督を認めない男系男子血統であるため、吉備の女帝は必ず途絶える。
 ▼男王(筆頭巫女・女王を中心とする巫女連合の呪術の結果を受けて執政。)
 【特徴】
 王国の基礎はシヤーマニズムであり、女系男子・巫女神道血統による神懸り神事である。これら古代女王王国の男衆(女系男子)の間では、巫女と関係し、新たな巫女を多く設けるほど自身が霊力を帯び権力を得ると信じられ、またこのようなシヤーマニズムを主導したのは筆頭巫女自身であった(特に那馬台国では命令系統が筆頭巫女から巫女連合や男衆らへの上意下達)。男衆は、未だ巫女と関係が深い間は能率最優の男臣にとどまったものの、祭祀のつら呪術以外の実作業を担って女王・筆頭巫女を支える祭祀職能集団を形成し、のちに巫女と関係する男臣となった。
 このような共同体は、階級制が萌芽した後期縄文時代のムラ社会直系であり、琉球・アイヌでは近代まで見られる一方、末期渡来人・弥生人(朝鮮・百濟系王族一派すなわちヤマト王権連合勢力や中央家系)には見られないものであり、男系男子の皇統や豪族・貴族・武家はこのような女系共同体のみに生じた。

皇統系吉備巫女系巫女神道宗家

女帝(女性天皇)を輩出した吉備の女系巫女神道宗家

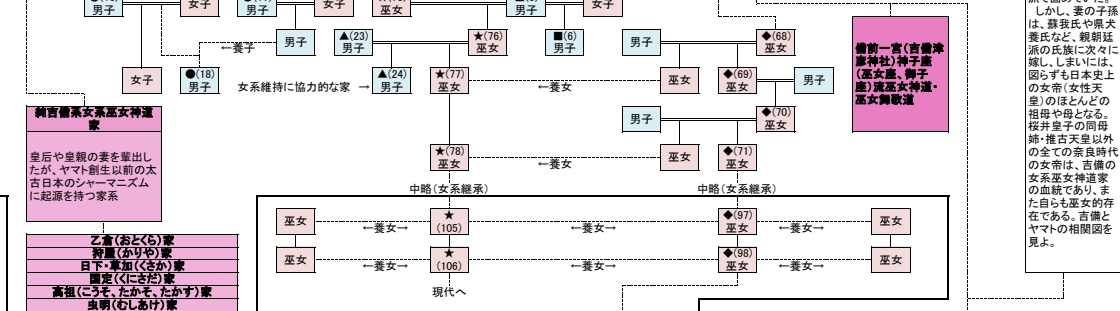


古代吉備王国滅亡後から近世末期までの系図

※ 本系図は、岡山県の吉備王国系・教派神道系巫女神道社家(旧派歌道総覧)を見よ)の協力による。
 ●▲■ いわゆる貴族・武家の互いに別個の家系(男系男子、とりわけ嫡男が家督を継ぐ。)
 ★◆ 同前
 【特徴】
 別個資料の通り、古代吉備王国は大和朝廷軍の侵攻によって滅亡し、吉備氏や和氣氏など、王国内の有力家族は朝廷に取り込まれ、その一員となった。
 以後、近世末期に至るまで、皇統・ヤマト王権(大和朝廷)とその支配下のあらゆる豪族・公家・貴族・武家・農家・商家などで男系男子継承が常例となつてからは、土着の女系巫女神道社家は、各男系家系を次々と凌りながら女系を維持することとなった。すなわち、異なる巫女と男子の間にできた女子は、必ずその男子の家以外への別家へ嫁することとなる。しかし、当主男子が自身の家の男系維持のみならず、妻の家の女系維持にも協力的である場合、別の女系巫女家系から養女を迎えて巫女とすることがあった。
 なお、「巫女神道家」を「巫女神道社家」と呼ぶことができるのは、正確には、各家の世襲巫女がいずれか特定の神社(群)の巫女を継承するようになったこれら時代のみである。本来、シヤーマニズムの時代(前述)と、巫女禁断令や世襲社家の禁令が出された近代以後(後述)、「社家」ではない。但し、便宜上、単に「巫女神道家」の意で「巫女神道社家」と呼ぶことがある。

純吉備系女系巫女神道宗家

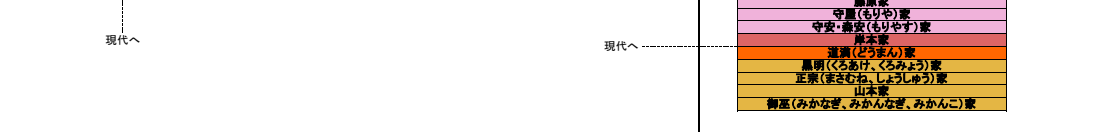
皇后や皇親の妻を輩出したが、ヤマト朝生前の太古日本のシヤーマニズムに起源を持つ家系



巫女禁断令(1873)以降の系図

※ 本系図は、岡山県の吉備王国系・教派神道系巫女神道社家(旧派歌道総覧)を見よ)の協力による。
 ★◆ 同前
 【特徴】
 近代化に伴い、明治新政府は巫女神道(巫女の祭祀)を「淫祠邪教」として、巫女禁断令を公布し、巫女の神懸り神事(巫女神楽・巫女舞による託宣など)を禁止し、これを行った巫女およびその巫女が属する女系神道家・社家に弾圧を加え、女系神道家・社家の多くを廃絶し追い込んだ。廃絶としては、神懸りを儀(儀式)を行ったのちに貴族・士族の女中・家談婦(朝堂・妾)と割り当て、国外追放する(欧米諸国男性の妻とする。欧米の魔術師すなわち魔女に転向させる)などがあつた。
 政府は、キリスト教文明に倣った近代国家建設を目指す一方で、明治天皇を頂点とする祭政一致国家を目指し、神道国教化を画策したが、すぐに「神社は宗教ではない(神社非宗教論)」という論理を用いて、天皇大権を有し統治権を総攬する明治天皇のもと、国家祭祀(皇室神道・国家神道、狭義の神社神道)と宗教(教派神道、仏教、キリスト教など)を分離し、官稱をもそれぞれ神社局長と教団に分割した。
 国家祭祀に神懸り巫女が存在しなくなったため、この時点で生き残っていた古代以来の女系巫女神道は、教派神道などの神道系新宗教団に強制編入させられた。但し、次第に巫女たち自らこれらの教団に所属し、祭祀を秘伝秘儀化させたため、祭祀はこれらの教団に密かに流れ込んだ。これらの教団は岡山・山陽地方発祥のものも多く(神智教、黒住教、金光教、ほんふしんなど)、吉備王国系の巫女神道家は、主にこれらの教団に所属させ、または派道することで、現在まで維持されている。
 但し、新宗教団に見られるスリテリヤリズムやニューエイジ思想、霊感療法に巫女神道が利用されており、教団側の當利主義に押されて伝統的な神道祭祀を失っている家もある。また、祭祀の秘伝秘儀化の実状の秘匿および家系の事情(父親が不明である巫女、母や自身がである巫女が多いこと)などから、系図に男子を記載しない例が増えている。
 なお、近代化にあたり社家の世襲も廃止されたため、有力な男系世襲社家(白川伯王家、吉田家)も衰退し追い込まれている。

神社(かんじや、じんじや、かんこそ、こうこそ)家系



皇統系吉備巫女系巫女神道宗家
女帝(女性天皇)を輩出した吉備の女系巫女神道宗家
桜井皇子の父・欽明天皇は、仏教伝播時の天皇であり、かつ極端な蘇我氏(崇仏派)扇動で、蘇我氏の娘を次妃に娶い、桜井皇子を授けた。ところが、授けられた後、妻の出でである吉備の巫女神道と当時手をつ結んでいた物部・忌部・中臣神道(佛仏派)側から、蘇我氏の娘を次妃に娶い、蘇我氏や蘇我氏と結んだとされた。蘇我氏や蘇我氏と結んだとされた。蘇我氏や蘇我氏と結んだとされた。蘇我氏や蘇我氏と結んだとされた。

備前一宮(吉備津彦神社)神子座(巫女座、神子座)巫女系神道・巫女舞歌道
皇后や皇親の妻を輩出したが、ヤマト朝生前の太古日本のシヤーマニズムに起源を持つ家系
乙書(おとろ)家
持貫(かりや)家
目録(めいり)家
高祖(こうそ、たかそ、たか)家
虫明(むしあけ)家

神社(かんじや、じんじや、かんこそ、こうこそ)家系
原林家
守屋(もりや)家
守安(もりやす)家
原林家
道満(どうまん)家
黒明(くろみょう)家
正家(まさむね、しょうしゆ)家
山本家
御巫(みかんな、みかんな、みかこん)家